

平成30年度 第1回 純正会地域包括ケア推進委員会 開催しました！

今回は、医療保険の勉強会と事例検討を行いました。
新たに、名古屋市立緑市民病院より細井さん、訪問看護ステーション太陽より野呂さんが参加されました。また、外部より名古屋市港区西部いきいき支援センター分室の高橋さん、板津さん、みなと・なかがわ介護支援センターの刑部さんが参加されました。

医療保険制度の勉強会

平成30年4月に医療保険、介護保険の改定がありました。在宅側より医療機関側に、どういった改定があったのかを知りたいとの要望があり、名古屋市立緑市民病院の細井さんが講師となり勉強会を行いました。

- ① 名古屋市立緑市民病院の概要説明
- ② 地域連携部門の業務内容
- ③ 平成30年度の診療報酬改定について
- ④ 地域包括ケア病棟とその費用の説明
- ⑤ 入院退院支援の業務内容
- ⑥ 名古屋市立緑市民病院の退院支援の流れ
- ⑦ 退院前カンファレンスとその加算について

その内容も参加者は興味深く聞いていましたが、入院が決まっている患者様に対して、事前に在宅での身体的状況、介護サービス利用の状況等の情報収集をする事で取得できる入院時支援加算について、条件が厳しくなかなか取得することが難しいと聞き、在宅側も情報収集にあたり何か協力できることはないかと想いを巡らせました。



事例検討

今回も野中式の事例検討を行いました。事例提供者は訪問看護ステーション太陽の横井さん。ALSの療養者さんへの支援について検討しました。本人は家で最期を迎えたいと思っているのに対して、妻が自宅での看取りに不安を持っており、さらには進行する病状に介護すら不安に感じている状況をどうしたら在宅看取りを可能にできるかを皆で話し合いました。質疑応答では、医療職の方からは「胃瘻が造設されているが経口摂取はできないのか？」などの本人の身体状況に関する質問があり、在宅側からは「本人夫婦のキャラクターはどうか？」「妻以外の家族の意見は？」といった夫婦関係や家族に関する質問が出ました。多くの質問の中で、いきいき支援センターの板津さんからの「このご夫婦の馴れ初めは？」という質問に対して、横井さんも今まで本人から聞いたことがなかった」との回答があり、事例検討するうえで本人、家族の生活歴を知ることが家族の関係を把握し事例の解決策につながるということがわかり皆さんも関心を寄せていました。

今回より委員会終了後、参加できる方だけで勉強会を行うことになりました。今回は、ケアマネジャーと同行してもらい、地域で生活されている方への支援の実際をみて頂きました。

対象者は経済的に問題があり電子レンジが購入できない利用者様で、暖かいものを食べるのができずに困っていました。

そこで、遺品整理の業者に依頼して電子レンジを無料で取り寄せてもらう事ができましたので、利用者様にお届けする場面に立ち会って頂きました。

本人は、「これで暖かいものが食べられるのでありがたい」と喜んでみえました。

参加された医療機関の委員より、「元々、在宅には興味があったので、色々な社会資源がある事を知ることができて良かった」との意見を頂きました。次回も、地域廻りを企画しておりますので「興味がある方は参加して頂きたい」と思います。

2部会の開催！

在宅看取りについては「妻が、家での看取りができないのなら、妻の負担も考え病院での看取りでもいいのかもしれない」「最初は、病院かもしれないが現状は家族の支援体制があれば家での生活もできると思う。妻だけでなく他の家族の力が借りられないか検討する必要がある」「サービス事業所だけでなくケアマネジャーも本人の話聞き連携体制を整える必要がある」との意見が出ました。参加の皆さんは宅看取りについて関心が高く積極的な意見交換ができました。最後の振り返りでは横井さんより「今まで妻にだけクローズアップしてきた。他の家族に対するアプローチをしてこなかったのが今後はアプローチしていきたい」と前向きな感想をもらいました。



次回の予定

日付	行事	場所
5月18日 13時半	介護保険サービスについて、事例検討	東洋病院